

伊勢崎市議会議員 新井 智 様

会 派 名 伊勢崎市議会 伊勢崎クラブ

代 表 者 会長 原田 和行

令和 元 年度政務活動費支出状況報告書(第1四半期)

伊勢崎市議会政務活動費の交付に関する条例第6条の規定により、次のとおり令和 元 年度第1四半期(4月から6月まで)の政務活動費支出状況を報告します。

1 支出状況

(単位:円)

科 目	今期支出額	左のうち、 今期概算払受領済額	備考
調 査 研 究 費	378,600	378,600	第1回概算払及び戻入
研 修 ・ 会 議 費	42,240		
資 料 作 成 費			
資 料 購 入 費			
広 報 広 聴 費	154,828		
要 請 ・ 陳 情 活 動 費			
人 件 費			
事 務 所 費			
合 計	575,668	378,600	

2 交付限度額	6,720,000	円
3 既 交 付 額	378,600	円
4 今 期 請 求 額	197,068	円
5 未 交 付 額	6,144,332	円
6 添 付 書 類		

- (1) 領収書
- (2) 視察等報告書
- (3) 会計帳簿の写し
- (4) その他政務活動費の支出に係る証拠書類



令和元年度 政務活動費会計帳簿

交付限度額	6,720,000
既交付額	378,600
支出額計	575,668

会派名 : 伊勢崎クラブ

整理 番号	日付	科目	内 容	収 入	支 出	差 引
1	4/26	広報広聴費	市政報告書郵送代		152,128	-152,128
2	5/9	研修・会議費	地方から考える社会保障フォーラム参加外 (5/8~9)		42,240	-194,368
3	6/4		第1回概算払入金(6/10~11:オガール紫波 視察外)	390,708		196,340
4	6/11	調査研究費	オガール紫波視察研修外(6/10~11:岩手 県紫波町)		378,600	-182,260
5	6/28		第1回概算払い精算による戻入	-12,108		-194,368
6	6/30	広報広聴費	ホームページドメイン更新料(2019年4~9月 分)		2,700	-197,068
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

平成 31 年度政務活動費領収書等貼付用紙

整理番号

会 派 名	伊勢崎クラブ	議員氏名	宮田 芳典
支出年月日	平成31年 4月26日 (第1四半期)	支 出 額	152,128 円
按分した場合	(金額) 円 × (按分率) = 円		
使 途 区 分	1. 調査研究費 2. 研修会議費 3. 資料作成費 4. 資料購入費 ⑤. 広報広聴費 6. 要請・陳情活動費 7. 人件費 8. 事務所費		
備 考	市政報告書郵送代		

◎貼付欄 (領収書等は、重なりや折れがないように貼付する。)

領収書

伊勢崎クラブ 様

[別納引受]
 区内特別基 (定) 12.5g
 @72 1,384通 ¥99,648

 小 計 ¥99,648

 第一種定形 12.0g
 @82 640通 ¥52,480

 小 計 ¥52,480

 郵便物引受合計通数 2,024通
 課税計 ¥152,128
 (内消費税等 ¥11,268)
 非課税計 ¥0

 合計 ¥152,128
 お預り金額 ¥152,128

印紙税申告納
 付につき廻町
 税務署承認済



〒100-8792 日本郵便株式会社
 東京都千代田区大手町2-3-1
 取扱日時：2019年 4月26日 11:51
 担当：[REDACTED]
 発行No. 190426A6762 端N07箱01
 連絡先：伊勢崎山王郵便局
 TEL:0270-24-3222

令和 元 年度政務活動費領収書等貼付用紙

整理番号

2

会 派 名	伊勢崎クラブ	議員氏名	細谷 泰治
支出年月日	令和元年 5月 9日 (第1四半期)	支 出 額	42,240 円
按分した場合	(金額) 円 × (按分率) % = 円		
使 途 区 分	1. 調査研究費 ②. 研修会議費 3. 資料作成費 4. 資料購入費 5. 広報広聴費 6. 要請・陳情活動費 7. 人件費 8. 事務所費		
備 考	地方から考える社会保障フォーラム参加 (令和元年5月8日～9日) に係る参加費・宿泊代・交通費等		

◎貼付欄 (領収書等は、重なりや折れがないように貼付する。)

領 収 証 伊勢崎クラブ
細谷 泰治 様

¥ 27,000円

但

第18回 地方から考える「社会保障フォーラム」セミナー参加費として
2019年 5月 8日

上記正に領収いたしました

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-5-3 伊勢崎クラブ

地方から考える「社会保障フォーラム」事務局

◀投入方向 駐車券・領収書

三井のリパーク

01	#43921 A	19-05-08 09:19
01	A 1400A	19-05-09 17:18
領収金額		上段…入庫日時 下段…出庫日時

⑨ 駐車券ご利用注意点 ⑩

- 駐車券は出庫時に必要となります。券の紛失にご注意ください。紛失しますと所定の紛失料金を申し受けます。
- 駐車券を磁気近づけたり折損・汚損しますと精算が出来なくなる事がありますのでご注意ください。
- 場内での事故・災害・盗難等につきましては、一切の責任を負いません。RK0559

伊勢崎クラブ 領 収 証
上 様

金4,940円

ただし、乗車券類代として、上記金額を受領しました。

本領収証は時間がたつと文字が薄くなる場合がありますので、長期間保存する場合はコピーをお取り下さい。

2019年 5月 8日

印 紙 税 申 告 納
付 に つ き 渡 谷
税 務 署 承 認 済

東日本旅客鉄道株式会社
本庄801 No.000004

政務活動費領収書等貼付用紙 (続紙)

◎貼付欄 (領収書等は、重なりや折れがないように貼付する。) 整理番号

2

領 収 書 RECEIPT	
伊勢崎クラブ新治泰治様	№ 28347 2019年5月9日
¥ 8,900-	
但し 宿泊代として	
上記の金額正に領収いたしました。	
印紙税法第5条第1号 の規定(別表第1の第 17号文書)により収 入印紙をはりません。	全国町村会館 〒100-0014 東京都千代田区永田町一丁目1番地35号 一般財団法人 全国自治協会 TEL(03)3581-0472
	担当: (F・R・W・S)

第 18 回

社会保険旬報 地方から考える 社会保障フォーラム

最新政策動向をつかむ/
セミナー開催のご案内

政府は2019年度予算案で高齢化などに伴う社会保障費の自然増分を約4800億円に抑え、「全世代型」の社会保障への転換を進めるとしています。
これからも続く超高齢社会にふさわしい社会保障システムのあり方とは？

講演予定講師・テーマ

辻 哲夫氏 東京大学高齢社会総合研究機構特任教授、
元厚生労働事務次官

「社会保障・地方の課題とは？」

金子 隆一氏 明治大学政治経済学部特任教授
「人口減少の現実(長期的、短期的)と対応策(方向性)」

大島 一博氏 厚生労働省老健局長
「これからの高齢者福祉」

横幕 章人氏 厚生労働省大臣官房会計課長
「新年度厚生労働省予算の概要」

萩原 竜佑氏 厚生労働省社会・援護局総務課
自殺対策推進室室長補佐
「厚生労働省の自殺対策—自殺予備軍を地域で支える」

今回も厚生労働省の政策担当者や、専門家からダイレクトに社会保障政策の方向性を聞くと同時に地方議員の皆様との貴重な意見交換の場となれば幸いに存じます。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時

2019年5月8日(水)、9日(木)

参加費 5月1日(水)までに27,000円(消費税込み)をお振込みください。

会場 (貸会議室) ビジョンセンター東京有楽町 〒104-0061 東京都中央区銀座1-6-2 銀座Aビル3階

定員

100 名

定員になり次第
締切

PROGRAM 第18回 地方から考える「社会保障フォーラム」

5/8 (水) 1日目

12:00~ 受付開始

12:45~ 開講の挨拶、オリエンテーション

13:00~14:00 **講義1**「人口減少の現実(長期的、短期的)と対応策(方向性)」
金糸 隆幸氏 明治大学政治経済学部特任教授(前国立社会保障人口問題研究所副所長)

14:00~14:30 討議(30分間)

14:30~14:40 休憩(10分間)

14:40~15:40 **講義2**「社会保障・地方の課題とは？」
辻田 英氏 東京大学高齢社会総合研究機構特任教授、元厚生労働事務次官

15:40~16:10 討議(30分間)

16:10~16:20 休憩(10分間)

16:20~17:20 **講義3**「これからの高齢者福祉－公的保険でやること地域でやること」
大島 一博氏 厚生労働省老健局長

17:20~17:50 討議(30分間)

17:50~ 情報交流会 ※講師のご参加者はオリエンテーションにて告知します。

18:50 終了

5/9 (木) 2日目

9:30~ 受付開始

10:00~11:00 **講義1**「新年度厚生労働省予算の概要－自治体にとっての影響は？」
横幕 章人氏 厚生労働省大臣官房会計課長

11:00~11:30 討議(30分間)

11:30~12:30 昼休み(60分間)

※12:20~12:30 **ランチブレイクセミナー** (株)社会保険出版社 間宮 将人「地方自治体における地域包括ケアシステムの取組例」

12:30~13:30 **講義2**「厚生労働省の自殺対策－自殺予備軍を地域で支える」
萩原 竜佑氏 厚生労働省社会・援護局給務課自殺対策推進室室長補佐

13:30~14:00 討議(30分間)

14:00~14:10 休憩(10分間)

14:10~14:55 **聴いてトクする 社会保障** 年友企画(株) 大山 均「年金のとりあげ方－2つの媒体－」
(株)社会保険研究所 谷野 浩太郎「診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬改定と処遇改善加算」

14:55~ 終了の挨拶 次回開催のお知らせ

15:00 終了

令和元年5月24日

視察等報告書

整理番号

2

会 派 名	伊勢崎クラブ	報告者氏名	細谷 泰治
日 時	令和元年5月8日（水）～5月9日（木）		
事 項	社会保険旬報：地方から考える社会保障フォーラム		
場 所	ビジョンセンター東京有楽町（中央区銀座1-6-2 銀座Aビル3F）		
参加者氏名	細谷泰治		
（目的） 別紙のとおり			
（成果・所感） 別紙のとおり			

※（目的・理由・内容）及び（成果・所感）は別途報告様式に替えることができる。

なお、（成果・所感）は、参加者全員が記入する。

第18回地方から考える「社会保障フォーラム」参加報告

伊勢崎クラブ 細谷 泰治

■日時: 令和元年5月8日(水)・9日(木)

■会場: ビジョンセンター東京有楽町

■参加の目的

医療や介護、障害者福祉、そして地域包括ケア等行政の取り組む社会保障は多岐に渡る。多岐に渡るにも関わらず監督官庁は「厚生労働省」一本であり地方に戻るとタテワリされてしまいう現実がある。厚生労働省のスタッフは何を考えて様々な施策を展開しているのか。現役の中心人物と元事務方トップが講師ということであり参加することを決めた。彼らの施策に対する思いなりに触れ、そしてまた、地方議員としてはどのように受け止め、制度の活用或いは自身の行動はどうすべきなのかという視点で研修に参加させて頂いた。

■プログラム

★5月8日(水)

1. 「人口減少の現実(長期的、短期的)と対応策(方向性)」

金子隆一氏 明治大学政治経済学部特任教授(前国立社会保障人口問題研究所副所長)

2. 「社会保障・地方の課題とは？」

辻哲夫氏 東京大学高齢社会総合研究機構特任教授、元厚生労働事務次官

3. 「これからの高齢者福祉—公的年金でやること地域でやること」

大島一博氏 厚生労働省 老健局長

4. 情報交換会

★5月9日(木)

5. 「新年度厚生労働省予算の概要—自治体にとっての影響は？」

横幕章人氏 厚生労働省 大臣官房会計課長

6. 「地方自治体における地域包括ケアシステムの取組例」

間宮将人氏 株式会社社会保険出版社

7. 「厚生労働省の自殺対策—自殺予備軍を地域で支える」

萩原竜佑氏 厚生労働省 社会・援護局総務課 自殺対策推進室室長補佐

8. 「年金の取り上げ方—2つの媒体—」

大山 均氏 年友企画株式会社

■プログラム概要

前国立社会保障・人口問題研究所副所長の金子特任教授は、「人口減少の現実(長期的、短期的)と対応策(方向性)」と題して講演。人口減少と少子高齢化で、有権者のうち「65歳以上」の割合は1965年には10.0%だったが、2016年には33.3%に上昇し、2065年には44.7%に達するとの推計を示した。政治や経済、社会保障において少子高齢化により生じる課題に対応していくため、高齢者の平均余命や健康度、生産性に注目することを提案。「年齢や障害により身体などに制約がある人々の生産性を制度により引き出し、本当の意味での全員参加社会を構築していくことが望ましい」と述べた。

元厚生労働事務次官の辻教授は、「社会保障・地方の課題は？」をテーマに講演。在宅医療と多職種連携システム確立の試みである柏プロジェクトの取り組みを説明し、超高齢・人口減少の同時進行に対し、「コンパクトシティ+ネットワークの地域共生社会」を提案。「コンパクトシティを目指すためには、市町村と医師会が組んで、在宅医療の連携拠点をつくることが大事。今後は市町村の力量が問われており、市町村が本気で取り組むべきだ」と述べた。大島老健局長は「これからの高齢者福祉—公的保険でやること地域でやること—」をテーマに講演した。現下の介護の課題として◇人手不足◇認知症◇財政の持続性—を指摘し、「この3つの課題に対し、どのように介護保険をうまく使っていけるか」と述べた。その上で、介護保険のあり方として、人口減少時代への適合や予防への支援、社会参加・地域貢献への拡大、地域共生社会の視点をあげた。また、3月にまとめた自治体とのコミュニケーションツールとしての事例集「これからの地域づくり戦略」を紹介。「やはり地域づくりをやらないと、全体を介護保険の給付だけで支えることは難しい。住民相互のなかで生きがいややりがいを見出すことが必要だ」と述べ、今後、同事例集を活用した意見交換を全国的に展開する方針を示した。

9日、横幕章人・厚生労働省大臣官房会計課長の「新年度厚生労働省予算の概要」について説明した。特に高齢者人口の増加は2022年度より4%増加が3年間継続する前提に立ち社会保障・税一体改革の全体像を示し子ども・子育て支援、医療・介護サービスの提供体制改革、医療・介護の制度改革、そして年金制度の充実と謳う個別内容について述べた。具体的には地域包括ケアシステム、介護保険の1号保険料の低所得者軽減、介護職員の更なる処遇改善、そして省庁横断の「防災・減災、国土強靱化のための緊急対策」についても詳しく解説した。2021年度予算からは高齢者人口の増加もあるため予算立案が難しい局面に入ると胸襟を吐露された。

萩原竜佑・厚生労働省社会・援護局総務課自殺対策推進室室長補佐の「厚生労働省の自殺対策—自殺予備軍を地域で支える」では10年前「自殺者数が3万人」ということだが、平成21年以後逡減しており現在は2万人にまで減ってきていると述べた。平成28年自殺対策基本法の改正、自殺総合対策大綱の制定により具体的には平成38年度目標を1万6千人(欧州の先進国水準)までとする目標設定しており、現在はそれを下回る水準で推移している

とのこと。地域共生社会の実現に向かう様々なフェイズで施策を展開する、具体的にはそれぞれ減少の少ない児童に対する施策と生活困窮者自立支援の施策について述べた。

■所感

厚生労働省の現役官僚、或いは OB でトップ経験者の話を聞けて、それぞれの制度設計に対する思いの伝わる内容でした。元厚生労働事務次官の辻教授の話では所謂、コンパクトシティ、という言葉の持つ響きから「街」をイメージしていたが、それは地域共生社会でも実現可能なコンセプトなのだ、と得心しました。

大島老健局長の話では内に秘めた自負を感じつつ、国は国で良い制度を作りますが、地方の皆さんも作った制度を上手に使って欲しいという言葉にも共感できました。

障害支援、児童子ども、子育て支援、介護支援、医療支援、そして国保や介護保険、年金と超幅広く携わる厚労省ですが、実際の地方の現場では窓口はそれぞれ部門が分かれています。どうも社会保障全般を見渡せることで、国の用意した制度を効率的に使い受ける側も心地よい最適な社会保障が実現できるのではないか、という思いを強く抱きました。

これからの時代、地域共生社会の実現していく上では国の社会保障全般を俯瞰しながら、(厚生労働省的な視点とでもいいましょうか)伊勢崎市にとってどういう姿が理想なのか？非常に考えさせられるフォーラムとなりました。

以上

令和 元 年度政務活動費領収書等貼付用紙

整理番号

4

会 派 名	伊勢崎クラブ	議員氏名	経理責任者 須永聡
支出年月日	令和元年 6月14日 (第1四半期)	支 出 額	378,600 円
按分した場合	(金額) 円 × (按分率) % = 円		
使 途 区 分	① 調査研究費 2. 研修会議費 3. 資料作成費 4. 資料購入費 5. 広報広聴費 6. 要請・陳情活動費 7. 人 件 費 8. 事務所費		
備 考	岩手県フットボールセンター、サンビレッジ紫波及びオガール紫波視察研修に伴う、鉄道運賃・宿泊代・研修参加費・駐車場代 (令和元年6月10日～11日：岩手県紫波町)		

◎貼付欄 (領収書等は、重なりや折れがないように貼付する。)

領 収 証

2019年 6月 7日

伊勢崎市議会伊勢崎クラブ 様

金294,840円

ただし、乗車券類代
として、上記金額を受領しました。

印 紙 税 申 告 納
付 に つ き 波 谷
税 務 署 承 認 済

本領収証は時間がたつと文字が薄くなる場合がありますので、
長期間保存する場合はコピーをお取り下さい。

東日本旅客鉄道株式会社
伊勢崎801 No.000010



領収書

No. 043252

2019年06月14日

伊勢崎クラブ

様

¥52,200-

上記金額正に領収いたしました。

またのお越しをお待ちしております。



オガールイン
(ID:DOL02000)

政務活動費領収書等貼付用紙 (続紙)

◎貼付欄 (領収書等は、重なりや折れがないように貼付する。) 整理番号

4

ご請求明細書

2019年06月14日

1 / 1 頁



OGAL INN

岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前2-3-12

TEL 070-6953-9982 FAX 019-681-1257

御芳名 伊勢崎クラブ

様

お部屋番号	大人人数	子供人数	泊帰人数	御利用日	泊数	受付番号
W36 9 部屋	9	0	0	2019年06月10日 2019年06月11日	から まで	1 043252

利用日	御利用明細	単価	数量	金額
06月10日	ご宿泊代	5,800	9	52,200
合 計				(A) 52,200

	(B)	0
	(C)	0
ご利用ありがとうございました。 よろしいですか 【はい】 【いいえ】	総合計 (A)+(B)+(C)	(D) 52,200
	クーポン等 (ポイント含む)	(E) 0
	前受金等	(F) 0
	売掛金	(G) 0
	御請求金額 (D)+(E)+(F)+(G)	52,200

オガールイン
(ID:DOL02000)

政務活動費領収書等貼付用紙 (続紙)

◎貼付欄 (領収書等は、重なりや折れがないように貼付する。) 整理番号

4

領 収 証

伊勢崎市議会伊勢崎 クラブ

様 No.

★ 729,160-

内 訳

現 金 727,000-

小切手 /

手 形 /

消費税額等(8%) 7840-

但 オガールプロジェクト視察研修費と17

令和元 年 6 月 11 日 上記正に領収いたしました

〒028-3318 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前
二丁目3番地94 オガールセンター204

オガール企画合同会社

代表社員 高 橋 望

収入印紙

駐 車 券 台

D-Parking
土地活用は大和ハウスグループへ

早稲田の杜1丁目第1
大和ハウスパーキング株式会社

19-06-10 1-0047
08:16

精算06-11 17:55
駐車時間 1日 9時間39分
駐車料金 1,200円
割引 0円

領収書
前払 0円
現金 1,200円
釣銭 0円
NO. 147874

駐 車 券 台

D-Parking
土地活用は大和ハウスグループへ

早稲田の杜1丁目第1
大和ハウスパーキング株式会社

19-06-10 1-0046
08:14

精算06-11 17:55
駐車時間 1日 9時間41分
駐車料金 1,200円
割引 0円

領収書
前払 0円
現金 1,200円
釣銭 0円
NO. 147873

伊勢崎クラブ先進地視察日程表

1. 視察先 岩手県紫波郡紫波町オガール紫波

2. 期 日 令和元年6月10日(月)・11日(火)

3. スケジュール

6月10日(月)

07:45 伊勢崎市役所集合出発

08:27 本庄早稲田発

11:26 紫波中央駅着

12:00 昼食(オガール紫波内)

14:00 岩手県サッカー協会クラブハウスにて研修・質疑応答

人工芝グラウンド及びサンビレッジ(屋内フットサル場)視察

16:00 ホテルチェックイン

18:00 懇親会(オガール紫波内 炭焼炉端二代目真魚板)

6月11日(火)

09:45 オガール紫波研修(オガールベース1階会議室)

～ 研修・質疑応答及び施設内視察

11:45 終了

14:14 紫波中央駅発

17:39 本庄早稲田着 → 解散

伊勢崎クラブ・オガール紫波視察研修参加メンバー表

令和元年6月10日～11日

氏 名	部 屋 番	
定方 英一	W31	
吉山 勇	W32	
新藤 靖	W63	
宮田 芳典	W66	
須永 聡	W67	
大木 光	W68	
細谷 泰治	W70	
藤生 浩二	W72	
佐藤 智則	W75	

令和元年 6 月 25 日

視察等報告書

整理番号

4

会 派 名	伊勢崎クラブ	報告者氏名	吉山 勇
日 時	令和元年6月10日～11日		
事 項	岩手県フットボールセンター、サンビレッジ紫波及びオガール紫波視察研修 (スポーツ施設整備状況及び公民連携手法による公共施設整備と運営)		
場 所	岩手県紫波郡紫波町		
参加者氏名	定方英一・吉山勇・新藤靖・宮田芳典・須永聡・大木光・細谷泰司・藤生浩二・佐藤智則		
(目的・理由・内容) 別紙に記載			
(成果・所感) 別紙に記載			

※ (目的・理由・内容) 及び (成果・所感) は別途報告様式に替えることができる。
なお、(成果・所感) は、参加者全員が記入する。

別紙

官民連携で賑わいのまちづくりとして、24年6月オープンから現在でもいまだに全国から視察の申し込みが殺到中のオガール紫波と関連施設について視察研修を行った。行程としては、10日午後2時から岩手県サッカー協会クラブハウスにて、『岩手県フットボールセンター』及び屋内施設『サンビレッジ』の施設整備の研修を受け、両施設の視察を行った。『フットボールセンター』は、伊勢崎市あずまサッカースタジアムと同じく、人工芝のサッカーグラウンドで、世界最高水準の人工芝が施されている。あずまスタジアム・岩手県フットボールセンターでは、ほぼ同時期の人工芝施行で施工費はどちらも約1億円、岩手県フットボールセンターは、世界最高水準で素晴らしい人工芝であり、経年劣化も少なく、考えさせられた。その後は、オガール紫波を構成する、オガールベース・オガールアリーナ・紫波町役場・オガールプラザ・オガールセンターの各施設を視察。その後、予定しなかったが、時間があつたので全員で旧市街を徒歩にて視察。

翌11日は、9時30分より、オガールベース会議室において、紫波町企画総務部企画課職員の説明により、『公民連携による公有地開発～オガールプロジェクト～』について研修。公民連携のまちづくりは、

より多くの市民が関わり、責任ある立場の人も増え、より多くの市民の協力が得られる。みんなのために頑張る人が多ければ多いほど結果として、大きな成果を上げることが出来る。伊勢崎市においても、今後のまちづくりのあらゆる場面で、公民連携・民活導入の手法について研究し、導入していくべきであると考え。公民連携・民活導入の成功事例・先進事例として話にはいろいろ聞いていたが、実際に現地に行ってみると、資料による調査では計り知れないものがあつた。

今回の案件では、改めて視察研修の重要性を感じるとともに、今後の伊勢崎市のまちづくりに活かすべく研究していきたい。

追記として、オガール紫波については、それまで何もないところに公民連携により新しく開発をし、新たなまちを形成し成功をしているが、旧市内の再開発については民間からの提案を募集しても、明確な提案はなく進まないというのが現状のようである。人口わずか3.3万人の町が民活導入で、ここまですごいことを成功させたわけだが、変えるところ変えたいところ・残すところ残したいところなど線引きの難しい要素が様々ある再生の難しさを再認識した。

吉山 勇

正に、先進地視察としてふさわしい内容を研修することが出来た。

自分の目で確認しないとわからない精神と雰囲気を感じると同時に、発想の転換の必要性を感じた。

民間の発想・活力を行政に活用していくことは、今後の様々なインフラなどのハード面・運営におけるソフト面で、検討・導入していくことになるだろう。

定方 英一

旧商店街も視察することが出来、オガールの重要必要性を実感できた。オガールの施設内では、特にバレーボール体育館は印象に残した。バレーボールしかできない場所で、もったいないという考えもあったが、実際に視察しバレーボール競技に特化することにより、多くのバレーボール選手が利用し、プロ選手なども練習に来ていると聞き、1つのスポーツに特化することによりメリットが多くあることを知った。特化するには全国レベル・世界レベルの施設整備により、立地が多少悪くとも集まるのだと感じた。旧商店街がオガールの懸け橋となる交通網も今後気になるところであった。

新藤 靖

当時、紫波町が抱えていた、①若い世代の人口流出②商店街地区の活性化③子育てしやすい環境④雇用の確保などの課題に対応すべく、徹底した情報公開と住民参加の2点に注力した。

プロジェクトを立ち上げるにあたり2年間で100回以上（週1回のペース）の説明会・意見交換会を開き住民の理解を得ることが出来たそうです。

特筆すべきは、公民連携（PPP）が的確に機能していた事、テナント企業も全て地元企業で地場産業の活躍の場になった事、民間主導のイベントを継続的に行い、賑わいの空間を創り出していることなどの3点で大きな効果を上げている。やっと視察研修出来て良かった。

宮田 芳典

オガールプラザの民間施設部分は、補助金ありきの道を断ち、地元の金融機関などからの融資により開発されたことは特筆すべき点である。

金融機関が、施設完成後に入るテナントが稼ぐための経営計画までをも精査した上で出資に至った点が、今までの行政主導の地域活性化事業とは大きく異なっている。事業実施の可否の判断も含めて、事業の内容や継続性が厳しく審査されることで、将来にわたり負債を残さない取り組みが可能となる。

本市でもこの手法を大いに研究し積極的に取り入れるべきであると考えている。

須永 聡

公民連携ということで、あらためて民間活力の重要性を認識することができた。

また説明会を2年で100回も行ったとのことであり、形骸的な説明会ではなく住民と真摯に向かい合っており、対話の必要性・重要性を感じた。

大木 光

6/10(月)・11(火)オガール紫波視察

公共と民間の連携事業として名高いオガール紫波。そのため視察の受け入れも中々大変な当地であるが吉山経済市民委員長の発案と手配がスムーズに完了し定方伊勢崎クラブ政調会長と有志 9 名で急遽視察が可能となった。

少子高齢化による人口減少、国からの地方交付税や補助金の削減等々、厳しい財政状況の中で地域活性化に悩む地方自治体は少なくない。従来型の公共事業のあり方が問われる今、補助金に頼らない公民連携で地域活性化を進め、全国から視察来訪者が絶えない町が人口 3 万 3800 人の岩手県紫波町（しわちょう）である。

「オガールプロジェクト」と呼ばれる計画で、駅前の町有地 10.7 ヘクタールを中心に、サッカー練習場、ホテルやバレーボール専用体育館、図書館、カフェ、産直マルシェなどが入居する施設を相次いでオープン。年間 80 万人が訪れるようになっている。

VFM の視点で、逐次建設していく中で PPP や PFI といった欧米で導入が進む官民一体の資金調達方法を使いながら持続的発展を目指す紫波町を視察した。

1. 必要なものしか用意しない、ということ。

さて、バレーボール専用体育館ですがコートメインで観客席はほとんどありません。が、コートの素材は全日本チームが練習に合宿するような国際レベルのサーフェスだそうです。この考え方はサッカー練習場にも通じるものがありました。

ようは、大きな躯体は作りませんが一流の選手が満足する環境を用意したことで、結果地域の子供たちのためにもなると思います。

2. 修繕前提での地元木材使用

建物は県産木材を使用しています。これはランドスケープと経年変化を加味した結果であろうと推測できます。

3. 町の若手職員の説明

30歳前の若手職員の初めての説明に感銘を受けました。

バレーボール経験者と思われる彼の説明

オガールプロジェクト（岩手県紫波町）は、都市と農村の新しい結びつきを創造します。

「暮らす、働く、学ぶ、集う、憩う、楽しむ」新しく豊かで魅力的な持続的に発展する街を創っていくんだという秘めた熱意を感じられました。

4. 最後に

エリアマネジメントの目的は地域の資産価値最大化であり当プロジェクトはまさに、好事例だと思います。エリアマネジメント手法には様々ありますが、何もない所に創っていける強みを最大限活用し、官民連携で進めた当プロジェクト、本員としては20年後に当プロジェクトのあり様を見てみたい、というのが偽らざる気持ちです。

評価はそこで。

細谷 泰治

民間活力と行政の連携が合理的に融合したエリア。各年代に受け入れられるための様々な工夫がされ現実の形となっていました。具現化するための強いリーダーシップを示す人物や団体の存在は大きい。程よい計画期間はモチベーションを保持するためには、重要であると感じた。

公民連携の手法は、計画に関わる人も多くなり、より多くの意見・協力が得られ、まちづくりにおいては、今後あらゆる場面で導入の検討を加えていくべきではないかと考える。

藤生 浩二

「岩手県紫波町 岩手県フットボールセンター・オガール紫波」視察感想

岩手県フットボールセンター・サッカー場については、オガール紫波で設置が必要とされている雨水貯留浸透施設の上に設置されており、効率的に建設されていた。町、県サッカー協会、オガール紫波と三者協定が締結されており、建設時に町は県サッカー協会へ 6 千万円の補助、クラブハウスは完成後に町に寄付、県サッカー協会は町に 300 万円/年の地代支払い、交流公園条例が制定されイベントなどで人が集まることでオガール紫波に立ち寄る人も増加するなど、Win-Win の関係が構築されている。普遍的な集客をセットするという思惑通り、官民連携で施設整備を行い、協会が運営維持管理でき、利用者数面でも順調であり、民間との連携の必要性を非常に感じた。

また、オガールプロジェクトについては、公民連携による公有地開発、循環型まちづくりとして検討され、民間の良いところを取り入れ、様々な事業手法により行われていることを勉強させていただいた。元々あった広大な町所有の土地に行った事業であるため、簡単に真似することは難しいかも知れないが、民間との協力方法や考え方は参考になるように思った。さらにオガール地区とは別の古くから

ある商店街側についての状況も聞くことができ、リノベーションまちづくりということで、様々な取り組みを行っていることを学び、同じような悩み（住民の移動手段など）を持っていることを知る良い機会になった。

上手く行政と民間を繋ぐ必要性、また民間キーマンの必然などを感じ、これから伊勢崎市においても様々な可能性を検討していきたいと思う。

佐藤 智則

6

6

◎貼付欄（領収書等は、重なりや折れがないように貼付する。）

毎度ご利用いただきありがとうございます。

●お取引種別 ●取扱店 ●機番 ●お取扱日
支払 [REDACTED] [REDACTED] 31-03-28

●お取引銀行(会社) ●お取引店 ●口座番号

██████████ ██████████ ██████████ ██████████ * * *

●お取扱枚数 5万円 5千円 2千円 千円 500円 100円 50円 10円 5円

● 振込番号 ● 外理番号

¥70,200

● 干 粉 疫

¥324

4524

●お づ り ●説 明 ー ト ●ペ ー ジ ●取 引 時 刻
1 5 : 4 3

15.42

●ご案内

[REDACTED]

受取人名アハ"ウトネット(カ

依頼人名イセサキツキ”カイイセサキクラブ

[illegible]

平成30年11月30日

伊勢崎市議会 伊勢崎クラブ 御中

Yahoo!プロモーション広告正規代理店

アバウトネット 株式会社

〒379-2224 群馬県伊勢崎市西小保方町9-14

TEL 0270-75-3430 FAX 0270-75-3429

【振込先】

アバウトネット株式会社

アバウトネット株式会社

*振込手数料は貴社にてご負担お願い申し上げます。

いつもお引き立て頂き、有難うございます。

下記の通りご請求申し上げます。

ご請求書

ご請求額合計(税込)		¥70,200 —		ホームページ管理	
売上日	品 名	数量	単価	金額	
2018/11/20	管理費(30年4月～31年3月) 12ヶ月分 保守管理費用	12	5,000	¥60,000	
2018/11/20	ドメイン更新料1年間分 (利用期間 30年10月～31年9月)	1	5,000	¥5,000	
合計				¥65,000	
消費税(8%)				¥5,200	
税込合計金額				¥70,200	